

編：鶴田 大輔
皮膚科レジデントマニュアル

書評者：梶島 健治(京都大学教授・皮膚科学)

以前私が内科のレジデントをしていた時分、白衣のポケットに必ず入っていたのは、『Washington Manual』と抗生剤に関する『熱病』という2冊の本でした。おかげで、どこにいても何とかするという安心感がありました。

皮膚科に入局してからは、それらの本を持ち歩く必要もなくなり、持病の肩凝りは随分と楽にはなったものの、薬の名前が思い出せなかったりして不便を感じる機会が増えてきました。

現在、ちまたにはテキストが溢れかえる一方で、若者たちはテキストを買わずにスマートフォンでシャカシャカと検索にいそしんでいます。これも意外に効率が悪いです。

そんなご時世に、皮膚科医が持たずにはおれないテキストが発売になりました。この『皮膚科レジ

デントマニュアル』は皮膚科における『Washington Manual』のようなものです。とにかく白衣のポケットにすっぽりと収まることありがたい！

小さなマニュアルでありながら、実は、主な皮膚疾患の診断、検査、治療など診療に必要な知識が凝縮されています。何と、乾癬における生物学的製剤の最新情報や、エリテマトーデスではヒドロキシクロロキンまで載っているではありませんか。外来や病棟ですぐに参照できる設えとなっており、知識の確認に役立つのみならず、専門医試験をめざす方々にもかなり有益なのではないかと思います。個人的には、「薬疹の原因薬剤」一覧にかなり助けられそうです。そのほか、ダーモスコピー所見、皮膚疾患がどの部位に認められやすいかが一目でわかるイラ

ストなどもついています。

このテキストは、阪市大皮膚科の鶴田大輔教授による編集のもと、医局員の方々により執筆されたものであり、阪市大の英知の結晶と言えます。それ故、『皮膚科レジデントマニュアル』ではなく、“市大マニュアル”と私は呼んでいます。臨床医の要求にかゆいところまで手が届く内容でありながら、スマートフォンのように手軽に携帯できてしまうテキストです。今後末永く、皮膚科医にとって欠かせない一冊となることでしょう。

● B6変型 頁346 2018年4月
定価：本体4,800円＋税
[ISBN978-4-260-03439-5]
医学書院刊